

## 2017年度第1回研究会の報告

日時：2017年4月15日（土）14時から16時  
会場：戸山キャンパス33号館16階、第10会議室

このたびの「想像力」研究2017年度第1回研究会は、公開ではなく部門構成員のみで開催された。参加者7名で、まず研究会の運営方法等について意見交換を行った。引き続き、想像力について次の論題をめぐって討論した。

論題：「あの人には想像力が欠けている」という発言を耳にしたことがない人はいないのではないのでしょうか。いったいこの発言で、私たちは何を表象・理解しているのでしょうか。

第一に、「想像力（の欠如）」を他者について語る場合と自分について語る場合の相違が話題になった。他者について語られる場合、「想像力の欠如」は「配慮の欠如」という意味で用いられる場合が多い。このとき起きているのは、ひとつには、カテゴリーに基づいて断定的に語る態度である。あるいは、教員が生徒に向かって、その発達のイメージを欠いたまま語るのも一例である。他方、自分（主体）について語る場合、想像力は、自分についても他人についても「分からない」という意識のもとで働くことになる。いわば、「こころが動いている」という過程そのものが想像力である。さらに、このように想像力が働いているとき、主体においてはむしろ「私」がない状態が生じているという指摘があった。この「私」のあるなしは、想像力が感性的なものか知的なものかを考える際に重要な論点である。

第二に、「想像力」そのものに価値があるかが話題になった。想像力には、確かに悪しき妄想を抱かせるような側面もあるが、人間にとって不可欠なものだという意見が表明された。想像力は、ひとが物語とかかわるさいに、イメージ・像を産出するものである。このイメージの蓄積によって、私たちは「人間らしさ」のような価値をもつのであり、その点でも想像力には価値がある。「想像力」はまた、生の多様性を踏まえてなお、「同じ人間」という意識を醸成するものでもある。ただし、件の発言においては、実は、判断力や知性の欠如が語られているのではないか、という問題提起もあった。

第三に、現代人の想像力は貧困化しているかが話題になった。まず、古代エジプトやギリシア神話の世界にはきわめて豊かな想像力の発揮が見られることが確認された。他方、現代人は、（横溢する情報から自分を守るために）自分の殻を固くする傾向があり、SNSにおいて反射的に反応することで、大切なことを想像する時間を失っているのではないか、という指摘があった。この問題は、現代社会内部でも、想像力をめぐる世代間ギャップがあるのではないかという問題意識を誘発した。

次回の研究会は、5月から6月のあいだで、可能な限り多くの参加者を得られる時間を探し、開催することになった。（御子柴記）